





# サポーターの手引き

-  : ウェブサイト
-  : 動画
-  : 検索キーワード
-  : 本や資料

(※リンク先 URL は 2022 年 12 月時点のものです)







## 2 - ② 盲導犬の映像

盲導犬の理解をより深めるためには、以下のような映像やサイトが参考になります。映像を見るときは、途中で止めて説明することもできます。映像を見たあとに、感想を話してもいいですね。



公益財団法人日本盲導犬協会「【入門・教育】盲導犬について知りたい人集まれ！～人と盲導犬が笑顔で歩く社会へ～」

<https://youtu.be/pZswG2gHIUM>



※盲導犬の仕事内容や盲導犬ユーザーの生活、盲導犬ユーザーへの声のかけ方など、幅広く取り上げられています。約 15 分ありますが、3 分 40 秒まで見れば盲導犬の仕事を概ね理解することができます。



「公益財団法人日本盲導犬協会」公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCgMFOIFDeKasiqIEttT4f9g/featured>

※盲導犬に関する映像がたくさんアップされています。



TOKYO MX「盲導犬との生活に密着 時代の変化で新たな影響も」

<https://m.youtube.com/watch?v=5W00TrOVInc>



※盲導犬ユーザーに密着したニュース映像です。盲導犬ユーザーと盲導犬の生活や、関係性を理解する助けになります。



中部盲導犬協会「【中部盲導犬協会】～盲導犬の訓練&お仕事紹介～」

<https://m.youtube.com/watch?v=SC0nzeZ7rk8>

※盲導犬の訓練の様子や、仕事内容をまとめている映像です。周囲の対応についても学ぶことができます。

## 3 - ① 点字ブロック

カラーの写真を見せると、よりわかりやすいと思います。クイズに入る前に点字ブロックの写真を見せて、「これを見たことがありますか？」「名前を知っていますか？」と聞いてみるのもいいでしょう。

## 3 - ② 視覚障害のある人も読むことができる本

点字の本や録音の本など、視覚障害のある人もさまざまな方法で読書を楽しむことができます。ここでは日本のものを紹介していますが、参加者の経験や知識、ほかの国や地域の事情について聞いてもいいと思います。

また、日本には地域ごとに「点字図書館」があります。みなさんの教室の近くにもあるかもしれません。機会があれば、訪問してみてもいいと思います。訪問が叶わなくても、日本点字図書館のホームページを見ることも大きな学びになると思います。



社会福祉法人日本点字図書館「視覚障害者と読書」（視覚障害者の読書環境＜日本点字図書館について）

<https://www.nittento.or.jp/about/scene/reading.html>



厚生労働省「点字図書館一覧（2022年4月1日時点）」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000960980.pdf>

いっしょに/  
学び合いましょう

## 1 町の絵を見て、考えましょう。

参加者の人数がある程度いる場合には、小さなグループに分けて活動してもいいと思います。活動の流れは、①～③を1つずつ考えを共有して進める方法や、①～③すべてを1つの流れとして行い、最後に共有の時間を設ける方法など、いくつか考えられます。教室に合わせて進めてください。

②では、実際に町に出ることで、イラストに載っていないことも見つけれられるかもしれません。ぜひ、地域で生活するときに困る場所がないか探してみてください。いつも通っているなじみのある町でも、新たな気づきや発見があるかもしれません。また、地域の社会福祉協議会から車いすの貸し出しなどの手配もできるかもしれません。このような教室外での活動も取り入れることで、学びを広げることができます。

③の問いに「歩いています」という表現があります。この「歩いています」という表現は、車いすなど、いろいろな条件でこの町を「歩いている」人を含みます。教室によって、いろいろな背景をもっている方がいると思います。参加者に合わせて補足説明を試みてください。

## 2 こんなとき、あなたはどうしますか。それはどうしてですか。理由も話しましょう。

まずは状況を確認し、そのあとでグループで話し合ってみてもいいと思います。すぐに答えられないこともあるかもしれません。ここでは、発話を待ったり、いっしょに考えたり、話を広げたりすることが大切です。病院だけではなく、旅館やホテル、レストラン、スーパーマーケットなど、ほかの場所での事例も考えてみると、新たな視点から、いろいろな意見が出てくると思います。



今日の活動を通して感じたことや考えたことをほかの人に話すことで、さらに学びが深まります。また、ほかの参加者の話を聴くことも自分自身の学びにつながります。ふり返りの内容は、どんなに小さなことでも構いません。共感しながら話を聴くことを大切にしましょう。

まっおーロメモ

◎ 本書の「使い方」の説明文だと、やり方は、1人ずつ順番に、全員に向かってコメントするみたいだけど、ほかの方法もありますか？

ふり返りは、一人ずつ全員に向かって話し、ひとりひとりの学びを全員で共有することが原則です。自分以外の参加者が感じたこと、考えたことを聴くことで、さらに深い学びを得ることもあるからです。ただし、参加人数が非常に多い教室の場合であれば、グループに分かれてグループ内で共有するという方法もあるかと思います。



Q コメントは日本語ですか？

参加を始めたばかりの参加者の場合、自分の感じたこと、考えたことを日本語で伝えることがむずかしい人もいます。その場合は、母語やそのほかの言語で話してもらい、それを日本語に通訳できる人がいれば通訳してもらう方法もあるでしょう。



Q 「ふり返り」が充実した時間になるように工夫していることはありますか？

大切なことは「ふり返り」の時間もそれまでの時間同様に、安心、安全な場にあることだと思います。緊張したり、日本語で話すことに慣れていなくて、コメントがうまく口から出てこない参加者がいるかもしれません。そんなときも、みんなでサポートするような雰囲気を作けたらいいですね。

